

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400129		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	グループホーム乙川 一丁目		
所在地	半田市飯森町53番地1		
自己評価作成日	令和2年9月24日	評価結果市町村受理日	令和3年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症があっても人として当たり前の生活がおくれるよう「今できること」を大切に家事等、積極的に取り組んでいただいています。利用者様やご家族が意見や要望を言いやすい関係づくりを目指し、連絡を密に取るようにしています。また、生活全般において不安なく安心して暮らせるよう医療との連携もしっかり行いサポートしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=2392400129-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年11月1日		

ホームの運営法人が医療法人であることで、医療に関する支援が充実していることがホームの特徴でもある。母体の医療機関と連携しながら、利用者の健康状態に合わせた医療面での柔軟な対応が行われており、利用者、家族の安心感にもつながっている。現状、感染症問題があることで利用者の外出が困難になっているが、ホームのフロアーが平面でつながっている利点を活かしながら、利用者がホーム内を歩く歩行訓練が行われており、機能低下を防止する取り組みにもつながっている。日状的にもホーム内でレクリエーションの取り組みが行われており、利用者の生活が前向きなものになるような支援が行われている。なお、ホームの新たな取り組みとして、ホームで共用型のデイサービスを開始しており、近隣からの利用等も含めて、地域の方との交流にもつながる取り組みが始められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	現状できていない日もあるが、朝の申し送り時に復唱している。	運営法人の理念とホーム独自の理念を唱和する取り組みが行われており、職員間での共有につなげている。また、年2回、職員が自己評価を行いながら振り返りの機会をつつており、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	管理者が行っている。外出で地域を利用することで顔なじみになっている。	感染症問題があることで、地域の方との交流が困難になっているが、同じ敷地内に医療機関や整骨院が開設されていることで、近隣の方の訪問にもつながっている。また、ボランティアの方を通じた交流も行われている。	今年度より、共用型のデイサービスを開始したこともある為、近隣の方の利用の増加等、地域の方にホームを知ってもらい機会につながることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が行っている。外出で地域を利用することで顔なじみになっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	管理者が2か月に一度開催している。現在はコロナのため中止している。	今年度に会議については、書面により実施しているが、会議を開催した際には、多くの家族の参加が得られており、家族との定期的な交流にもつながっている。また、毎回の会議の際には、市職員の参加も得られており、情報交換にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者が行っている。	市担当部署とは、毎月の運営状況の報告が行われており、定期的な情報交換の機会にもつながっている。また、運営法人を通じた交流の他にも、市内の医療、介護事業所との連絡会に出席する等の取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	離設リスクのある利用者様が多く入所されているため玄関は施錠している。意識して身体拘束のないケアを行っている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内は開放的な雰囲気がつくられてあり、利用者が自由に移動することができる。また、運営法人を通じた専門の委員会の実施や定期的な職員研修を行い、振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入浴時、排泄時に身体の確認、異常があれば管理者へ報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が行っている。法人研修がある。学ぶ機会を積極的にもちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者が行っている。家族から意見があった場合は、管理者へ伝える。管理者からも聞いている。	ホームで行われている行事や運営推進会議等を通じて、家族との交流の機会がつけられている。定期的な便りに相談窓口を明示しており、家族からの要望等の把握につなげている。また、ホーム便りについては、3か月毎から毎月の作成に増やしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度のミーティングで情報共有、年に2回の面談で話す機会がある。	定期的な職員会議の他にも、日常的にも職員間で意見交換を行う時間をつくりながら、職員からの意見等を管理者が把握し、ホームの運営につなげる取り組みが行われている。また、管理者による年2回の職員面談を行い、職員の意見等の把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務や公休の希望は相談し希望に添えるようにしてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人研修があるため職員に合わせたものを受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人研修で他事業所の職員との交流がある。半田市在宅ケア推進地域連絡協議会に参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	要望等に耳を傾ける事が欠けていると思うので努力する必要がある。会話の中で聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	安心していただけるよう心がけている。要望などお話できる環境づくりに努めている。信頼関係の構築。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現状行えるサービスを伝え、一緒に考える。必要とされていることを知る努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様に合った支援を心がけている。自立支援を目指し、待つ介護の実践。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	来所時やお達者通信で近況の報告し、本人様の事で悩む場合は主介護者に相談し解決できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	来所されやすい雰囲気づくりをしている。現在はコロナで行えていない。	同じ敷地内に医療機関と整骨院が開設されていることで、利用者の友人、知人が受診を兼ねてホームに訪問することがあり、馴染の方との交流にもつながっている。また、家族との外出も行われており、食事や買い物をはじめ、身内の方の法事等に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	午前、午後のレクリエーションで交流を図っていただいているが、どうしても軽度の方を中心にレクリエーションになりがちである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	管理者が行っている。今のところ相談や支援は行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者本位の希望に近づけるよう、コミュニケーションを図り支援をうかがう。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者に関する意向等の把握につなげている。職員間での日常的な情報交換や定期的なカンファレンスを通じて、職員間で利用者の意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	基本情報、アセスメントに目を通し、分からないことは管理者へ確認している。生活歴の振り返りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	変化があれば管理者へ報告している。心身状態に気づきがあった場合は、記録に残す指導をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現状に即したプラン作成ができていない利用者様もみえる。ケアマネとの密な連携が必要。	介護計画については、ライフサポートプランの様式を活用しながら作成しており、利用者の状態変化等に合わせて6か月での見直しが行われている。また、日常的にも介護計画に合わせた記録を残しており、3か月でのモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気付いたこと、気になることは日誌、記録に残し、ミーティングの議題に取り上げ、ケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その日の体調に合わせた対応、本人様の思うように過ごしていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	管理者が行っている。地域資源を活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療、訪問看護の利用。必要があれば病院受診で対応している。ご家族の同行を求めているが難しい場合もある。	運営母体が医療機関であることで、医療面での定期的及び随時の連携が行われており、利用者の健康状態に合わせた柔軟な支援が行われている。また、ホームの関連の訪問看護による支援や同じ敷地内にある医療機関との連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員から報告を受け訪問看護で相談にのってもらっている。現在コロナで訪問がなく、看護師が常駐していない心細さはある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が行っている。入院時情報提供している。通院時は病院での様子や、ホームで注意すべき点、予防等聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	意向を家族に確認するためのカンファレンス開催で共通理解をする。訪診のドクターや訪看のナースにご家族の意向を伝えている。	身体状態が重い方も生活を継続しており、母体の医療機関と連携を行いながら、利用者の看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、意向に合わせた支援に取り組んでいる。また、看取りに関する職員研修も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルはあるが全ての職員が行えていない。半田市主催の救命講習への参加を促し、今年度は3名受講した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、避難訓練をしている。訓練の中での反省点や振り返りをしている。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等を行い、職員間で連携した対応に取り組んでいる。ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。地域の方との協力関係については、継続的なテーマでもある。	現状、地域の方との交流が難しく、近隣にあるホームの関連事業所との連携も行われていない状況でもある。ホームで可能な取り組みを検討しながら、災害対策に関する取り組みが深まることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩という意識がほぼない、人格を尊重した言葉かけや対応もできていない職員がある。指導していかなければいけない。	運営法人の基本理念でもある「職員心得三カ条」には、利用者への対応についても掲げられてあることで、職員で日常的な意識向上にもつながっている。又、運営法人を通じて接遇に関する研修を実施しており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の表情や行動で気付くように努めているが、職員都合になっていることが多々ある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員都合になっていることが多い。職員都合になっていないか再度見つめ直す必要がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った服を召していただけるようコミュニケーションの中で確認している。服が汚れている場合は着替えていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や片付けは行えていない。職員も一緒に食事をし楽しい雰囲気の中で食事ができる環境づくりをしている。	おかず類については、外部の厨房から提供しているが、ご飯と汁物についてはホームで調理が行われている。利用者に合わせたミキサー等の食事形態の対応も行われている。また、定期的に食事作りも行われており、利用者も参加する機会がつけられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者様に合わせた食事の形態での提供。食事量や水分量のチェック、できるだけ自己摂取できるよう支援。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自己にて行える方は見守り、不十分な所のみ介助させていただく。口腔用のスポンジを使用している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	介助が必要な利用者様が増え、排泄の失敗が多くある。排泄表を見て、定期的に声かけ、誘導を行っている。	排泄記録を残し、日常的に職員間で情報交換を行う時間をつくり、利用者に合わせて支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考え、カンファレンス等も通じて、排泄状態の維持、改善につなげている。また、排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便状況の確認。牛乳、腹部マッサージ、体操、便秘の方は便秘薬で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	ひとりひとりのタイミングに合わせたいが、現状はできていない。1日おきの入浴もできていない。身体状況に合わせて機械浴も対応している。	現状、ホームの様々な状況もあり、入浴については、週2回までとなっている。入浴を拒む方には、声かけを検討したり、職員が交代する等の対応が行われている。浴室に特殊浴槽の設置が行われていることで、身体状態の重い方に合わせた入浴も行われている。	現状、入浴の回数が限られた範囲となっている為、職員間で支援体制の検討を行いながら、利用者の入浴の回数が増えることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様の体調に合わせて休んでいただいている。リビングのベッドを利用される方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ほとんどの職員が目的や副作用を理解しようとしていない。薬は施設で管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	月に一度の行事や日々のレクリエーション、お盆拭きやおしぼりたみで、役割をもち過ごされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在はコロナのため外出できない。本人様から〇〇へ行きたいと言われることもあるため、コロナが収束したら行くことを伝えている。	感染症問題があることで、利用者の外出が困難になっているが、ホーム内の通路がユニットでつながっていることで、歩行訓練は行われている。例年は、季節に合わせた外出行事の取り組みや関連事業所の行事への参加等が行われている。	利用者の外出が行われていない状況が続いているが、職員間で感染症対策を検討しながら、可能な範囲で利用者が外に出ることができるような取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理者が行っている。お金を所持されている方は2名、欲しいものがかられば代行で買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	いつでも連絡できるようにしているが、ご家族の希望で制限のかかっている方が見える。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに作品づくりや写真を飾り、季節感が出るようにしている。共用スペースが清潔であるように細かい部分まで手が届いていない。	ホームのユニットが平面でつながっていることで広い空間が確保されており、利用者が毎日の生活をゆったりと過ごすことができる生活環境がつけられている。また、リビングや通路の壁面には、季節感のある飾り付けや利用者の作品の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方同士で楽しく過ごせるよう配慮している。独りの時間も大切にしてもらいたいので、いつでも居室へ行けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたものを自宅から持ってきてもらっている。誕生日の色紙や写真など飾る。	居室にはベッドとタンスが設置されていることで、持ち込みの少ない方もいるが、利用者の中には、入居前に製作した作品を持ち込む等、利用者に合わせた居室づくりが行われている。また、利用者の意向等に合わせ、身内の方の写真等を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室前の表札、トイレの表示で自由に行動できるようにしている。		